



環境経済論A

第5講

外部性③

コース・モデル

- R.コース 『社会的費用の問題』(The Problem of Social Cost)(1960)

←新古典派批判論文

- 新古典派のJ.G.スティグラーが、「コースの定理」として厳密に定式化し、
新古典派経済学に取り込まれた。
- コース・モデルは、外部性を扱うが、ピグー・モデルと政策的含意が正反対になる。
- ピグー・モデル(やボーモル・オーツのモデル)では、外部性に対しては政策介入が必要となるのに対し、コース・モデルでは、外部性は自動的に解消するので政策介入は不要となる。(モデルの仮定の相違に注意)

コース・モデル（設定， 仮定）

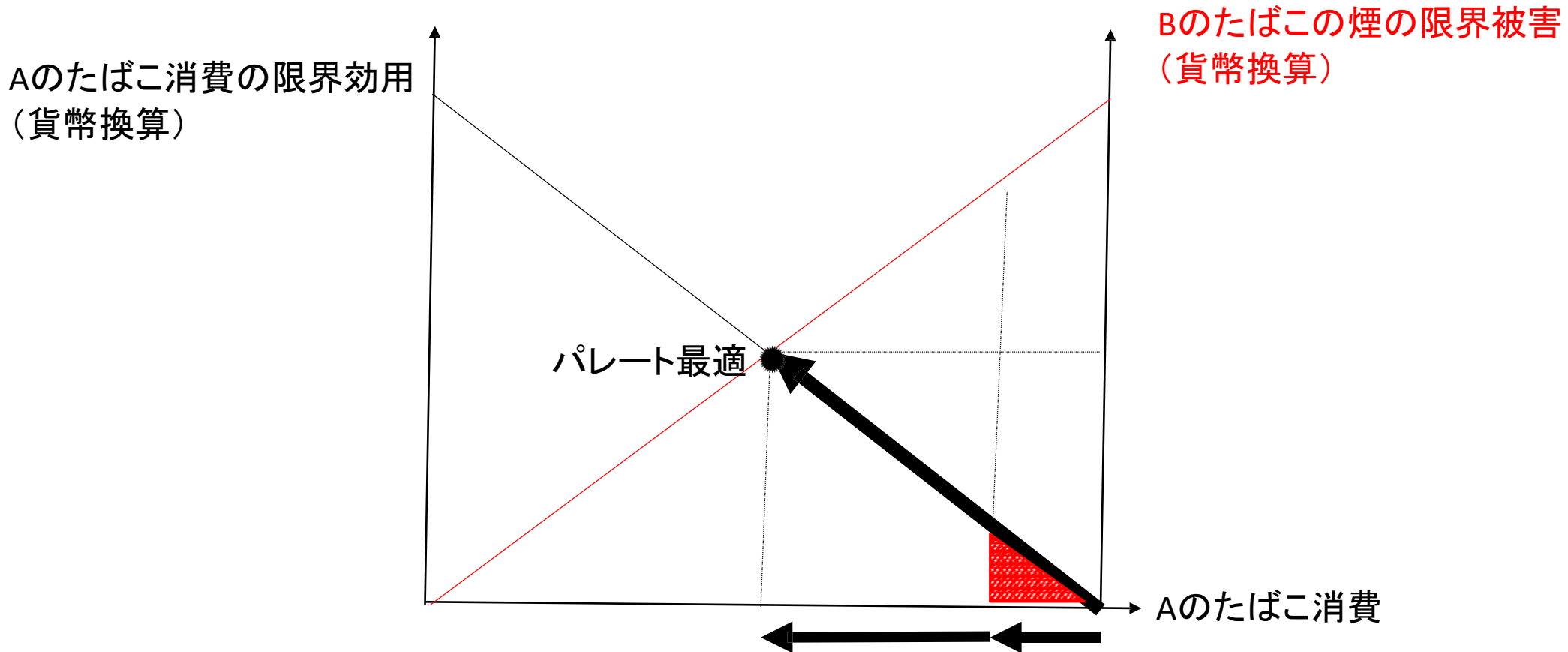
- 産業公害の設定（生産者と消費者）でも，コース・モデルは作成できるが，ここでは，敢えて，たばこの煙被害の設定（消費者と消費者）とする。
- ←①本講義を盛り上げるための演出（ピグー・モデルとの相違を見えにくくするため），②多くの経済学テキストで散見される設定
- モデルの仮定
主体＝消費者A（喫煙者），消費者B（嫌煙者）
消費者A（喫煙者）＝たばこを消費，同時に，たばこの煙を排出
消費者B（嫌煙者）＝たばこ以外の財を消費，たばこの煙から被害を受ける。
財＝たばこ（市場あり），たばこ以外の財（市場あり），たばこの煙（市場なし）

コース・モデル（追加の仮定）

- 消費者A(喫煙者)と消費者B(嫌煙者)が同一空間に存在するときのみ外部性が発生。→両者が同一空間に存在しなければ外部性の経済モデルが成立しない。
- 空間＝世界は「Aの部屋」,「Bの部屋」の2空間に分かれる。
- 主体間の関係＝「仲良し」(AとBが同一空間にいようとする仮定)
- 「仲良し」＝①両者が同一空間に存在することにより効用が生じる(一緒にいるとうれしい)。②自らの効用に関する情報共有(交渉)が可能(腹を割って何でも相談できる)。

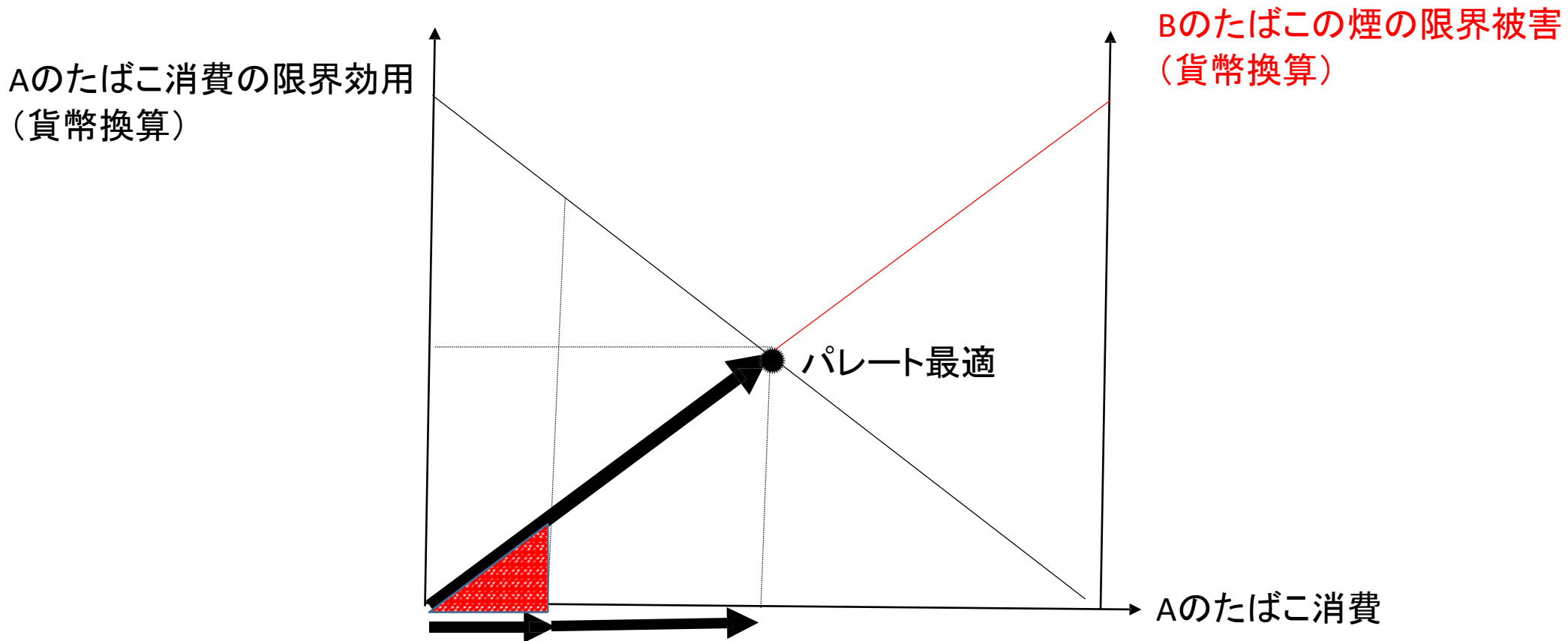
コース・モデル（エピソード1：「Aの部屋」編）

- B(嫌煙者)が「Aの部屋」(喫煙者の部屋)を訪れるケース



コース・モデル（エピソード2:「Bの部屋」編）

- A(喫煙者)が「Bの部屋」(嫌煙者の部屋)を訪れるケース



コース・モデル（権利の所在と資源配分）

- 「Aの部屋」(喫煙者の部屋, 喫煙権が支配), 「Bの部屋」(嫌煙者の部屋, 嫌煙権が支配), どちらの場合でも, 交渉が開始(「見えざる手」が出現)され, パレート最適に至る。
- 外部性が存在したとしても, 交渉が開始され, パレート最適に至る。
- コース・モデルにおいては, 外部性に対して, 政策的介入は不要ということになり, ピグー・モデル(やボーモル・オーツのモデル)では, 外部性に対しては政策的介入が必要となり, コース・モデルとは正反対の政策的含意を提出することになる。
- ピグー・モデルとコース・モデル, どちらが正しいか? 答えは, どちらも正しい。→仮定, 設定の本質的な違いに気が付きましたか?

コースの定理（新古典派批判）

- 外部性が存在したとしても、取引費用がゼロであれば、自発的な交渉が始まり（市場が形成され）、内部化する（パレート最適が実現する）。
- 外部性は、市場の失敗の一つであり、マーシャリアン・クロスを批判する新古典派経済学批判であったが、コースの定理は、取引費用ゼロであれば、外部性があっても市場が形成されて内部化しパレート最適になるという、新古典派にとって望ましい理論であり、実際に新古典派経済学に取り込まれた。そのため、R.コースはノーベル経済学賞を受賞した。
- R.コース自身、「コースの定理」が新古典派のスティグラーに新古典派化されたとの論述をしている。
- コースが真に言いたかったことは、取引費用がゼロになることはあり得ないという点であった。

コースの定理（新古典派批判）

- 権利の所在とは無関係に、パレート最適（資源配分の最適化）に至る。
- 権利の所在が所得分配を決定する。
（権利を持つものは、富を集める）
- 所得分配は、権利を持つものに有利になされる。
- 権利は、法・制度が定める。
- 法・制度は歴史的に作られる。
→「法と経済学」Law & Economics の創設

コースの定理が経済学に何をもたらしたか

- R.コースは, 「法と経済学」 Law&Economicsの創始者
- R.コースは, 「新制度学派」の創始者（旧制度学派：T.ヴェブレン T.Veblen 『有閑階級の理論』 The Thory of the Leisure Class）
- 権利→法・制度→富（貧富の差を決定するのは, 経済(市場)ではなく,
「法・制度」）
- 新古典派経済学とは決定的に異なる考え方（新古典派批判）
- スティグラーによる, 取引費用ゼロでの「コースの定理」定式化により, コースの新古典派批判モデルは, 新古典派に取り込まれた。